

## 会 議 要 録

会 議 名	平成 29 年度 第 2 回西予市社会教育委員会	
事 務 局	西予市教育委員会教育部生涯学習課生涯学習係	
	電 話 0894-62-6415	
	F A X 0894-62-0692	
日 時	平成 30 年 3 月 12 日 (月) 15 : 00 ~ 17 : 20	
場 所	西予市教育保健センター 4 階 大ホール	
出席者	委 員	13 名 / 20 名
	事務局	24 名
議 事 内 容 (要 旨)		
議事内容(要旨)	<p>① 平成 29 年度事業の反省、平成 30 年度志向について平成 29 年度社会教育実施報告書、スライドをもとに、生涯学習課→文化体育振興課→西予市民図書館→明浜教育課→野村教育課→城川教育課→三瓶教育課の順で説明。各町の公民館事業については、各代表主事が説明を行った。</p> <p><b>【質疑・応答】</b></p> <p>委員：今年魚成地区で西予市と合同の防災訓練をした。中学校の参観日と重なっていて、学校は防災訓練を知らなかった。せっかくの機会なので、全体で取り組みができれば良かった。その連携はどうなっているか。</p> <p>部長：仰るとおり不手際があり反省する。防災訓練、主幹は総務企画部危機管理課。行政一体のものなので当然連携をとってやるべき。今後このような事業があるときは行事が重複していないか確認をして計画する。</p> <p>委員長：私も消防団の城川方面隊長として参加した。全く同じことを感じていた。なぜ防災訓練の時に行事を入れるのか。</p> <p>委員：廃校した小学校を活用した事業（かりえ笑学校）について、地域の人とタイアップするなど大変参考になった。三瓶の下泊小学校跡地は医療関係が入っている。地域の方々が運動場の草ひきをしたり、きれいにしているところもあれば、そのままのところもあったり、元の施設を利用してパイザを作ったりする動きがある。三瓶小学校も冒険広場というものがあり、オリエンテーリングで旧小学校のある地域に児童が行って、地域の様子を学習している。245 人が地域に行くと大変喜んでい</p>	

ただ、みかんをいただくこともあり、地域住民と交流ができている。旧小学校の利用方法について、地域づくり組織の会合に出た。かりえ笑学校の様子を見て、地域としてせつかく残っている施設をなんとか新しい形で復興させるような、一つの事例として大変参考になった。私も狩江小学校に勤めていたことがあり、かりえのフロンティア精神はすごいと思っていた。

委員：田之浜小学校跡地を利用している2つの団体はどのような活動されているのか？

主事：一つはNPO法人「大崎の光」、花を植えている団体。もう一つは、別地区の為確認できていない。

委員：校舎を壊して？

主事：校舎の中でしている。

委員長：耐震の問題があり、そのままの利用が難しい点もあるが、なるべく活かした状態で地元で根ざした活動ができればと思う。

委員：文化の里スポーツクラブがあるが、行政と連携しているのか？

課長：文化体育振興課のスポーツ指導員（嘱託職員）が事業のサポートをしている。国等の補助金を申請して組織の運営サポートをしている。

委員：ブックスタートはどこに図書館に行ってもらえるのか？

図書館長補佐：図書館での配布ではなくて、0歳児、3歳児の健診の時に会場に出向いて本を配布している。

委員：狩江地区の移住定住事業について、移住者が高齢の場合があるかもしれないが、年齢制限はあるのか。

主事：年齢制限はない。西予市内に移住を希望している人、移住交流に参加できる人を対象にしている。「きたかな」という名称は、地元の方が「きたかな」と声をかけてちょっとした地域の自慢話をするということを目指している。

② 社会教育複合施設について（説明）

・生涯学習課長補佐説明。

委員長：30年度6月から着工。大変いい施設になるのではと思っている。気が付いた点があれば委員の皆さんから意見をいただきたい。

#### 4 意見交換

委員：公民館と地域づくりを発展させた小規模多機能自治活動拠点について、内容を教えていただきたい。地域が衰退していつている。いい方策を示していただきたい。空き家、耕作放棄地、少子高齢化・・・小さい地域は消滅してしまうのではと危惧している。どういふ方法で小規模多機能自治を進めるのか教えてほしい。

部長：公民館活動の事例を報告した。社会教育・生涯学習の活動と地域づくりの活動ははっきりと区分することができない。一体としてやっていく。社会教育、地域づくりを一体としたセンター機能を持たせて、旧小学校地区単位で、集落自治を支援する取り組み。内容は行政プロジェクトチームで検討中。今年秋以降に、素案ができた中で市民の皆さんに意見を伺う機会を設けて、周知をはかり、再度練り直していく方向。現時点で小規模多機能自治センターにどのような機能を持たせるという明言はできない。それぞれの地域において地域づくりの温度差もある。全地区一律で進めるのか、ぜひやりたいという地域から優先的にするのか考えていきたい。

委員：公民館主事はすべての地区行事に参加して大変。なにもかもするのは無理。地域の活性化の意識調査等意見をまとめてやってほしい。今の体制では無理だと思うので、職員を配置してもらったら地域も応えられる。

部長：今の公民館機能に加え充実を図っていくというのが根本的な考え。

委員：老人クラブとしてクロッケー等をやっている。先日も新居浜市の唐人クラブと交流したが、コーラスや食育でユニフォームを作ってやっていて、まとまりがある。事務局の女性がスマホを使って、写真を撮り、音楽入れて動画作りをしてPRしている。高齢化率はアップしているが、絶対的な老人の数も減ってきている。この社会教育の観点では高齢者教育を一項目に入れてもらっている。老人クラブ連合会の活動と公民館活動の線引きというか、公民館として老人クラブはどのように捉えているか。若手委員会も作ってレクの進め方も推進している。

課長：公民館活動として、老人クラブ活動やクロッケー大会の協力を通して、一体となって連携をとっていると感じている。どうぞこれからもパートナーとしてやっていきたい。

委員長：昨年 11 月県の社会教育研究大会で奥伊予太鼓の活動内容について事例発表をした。好評を得たと感じている。見に来ていただいた方ありがとうございました。

5 専門部会  
別紙のとおり

6 その他  
なし

7 閉会あいさつ  
副委員長